「論文作成」のための特別講座 練習問題 16

次の随想を読んで、あなたは「教育」をどのように考えますか。「犯罪」と「被害者」及び「教育」の、3つの言葉を必ず使って、自分の考えを作文しなさい。

随想

「受けとめてもらうだけで人は変わる」

寮 美千子(作家・詩人)

奈良少年刑務所の情緒教育プログラムを手伝ってほしいと言われたのは、5年前のこと。

「受刑者たちの多くは、虐待ぎやくたいを受けたり育児放棄ほうきされるなど、非常にきびしい環境で育ってきた。その心は一度もクワの入ったことのない荒れ地のようなもの。童話や詩を使って、受刑者たちの心を耕してほしい」とのこと。

受講生は、強盗、殺人、レイプ、放火、薬物など、重い罪を犯した子ばかり。正直言って、怖こわかったし、心を耕すなんて、そんなことできるのだろうか、と最初は思った。

それでもぜひにと頼まれ、恐る恐るはじめた「社会性涵養かんよう※プログラム」。これが思ってもみなかった効果を上げたので、わたしはびっくりしてしまった。1時間半の授業を月に3回、半年で1期。たった18回の授業で、彼らは見違えるほど変わる。どうしようもなく内気みちがでしゃべれなかった子が、自分から立ちあがって黒板に図を描いて説明するほどになる。まったく表情のなかった子に笑顔が戻ってくる。思いやりのある言葉を仲間に投げかけ、互いに励ましあうようにさえる。

魔法のようだと思った。日の前で起きていることが、信じられないほどだった。

授業で何をしているというわけでもない。童話を読んだり、自分で書いた詩を発表し、みんなで感想のを述べあうだけだ。ただし「詩の上手下手じようず へ た うんぬん」を云々する場ではない。その詩の気持ちを、みんなで受け取るための時間だ。

「好きな色」という題を出したら「ぼくの好きな色は青色です。つぎに好きな色は赤色です」という詩を書いてきた子がいた。

(裏面に続く)

どこをどうほめたらいいのかわからないような作品。とまどっていると、受講生の一人が「はいっ」と元気よく手を挙げた。「Bくんの好きな色、1つだけじゃなくて、2つ教えてもらってうれしかったです」びっくりした。そんなほめ方があるなんて。

「Bくんは、ほんまに青と赤が好きなんやなあと思いました」

仲間が次々に感想を述べる。すると、それまでまったく表情のなかったその子の口許がほころんだのだ。まるで花が咲くように。その日から、その子はみんなと打ち解けていった。

そんなことが頻繁に起こるのだ。少年刑務所という、ある意味どん底に堕ちてしまった人々の中に、こんなやさしさがあるのだと知り、わたしは驚き、感動した。人間というものへの信頼を取り戻したような気がした。

この授業で、彼らは変わる。1ミリも変わらなかった子など、一人もいない。拙い詩で表現し、それを仲間達に受けとめてもらえたというだけで、人は変われるのだ。

ということは、この子たちはこれまで、たったこれだけの「受けとめ」さえしてもらえなかったということか。親に虐待され、学校でいじめられ、どこにも救いがなかったのか。

詩をきっかけに心の扉が開くと、彼らに喜怒哀楽が芽生える。喜びだけではなく、痛みや苦しみも感じるようになる。そこで彼らははじめて「罪の重さ」を実感する。自分の心さえわからない子たちには、他人の心の痛みはわからない。自分の心を解放して、はじめて罪を悔いることができるようになるのだ。

表情が和らぎ笑顔さえ浮かべられるようになった彼らを見て思う。ああ、ここに来る前に、これだけの受けとめをしてもらえたら、少年刑務所に来ることもなかっただろうに。被害者も生まれなかったかもしれない、と。

彼らが世間に戻ったとき、どうか、温かく受けとめてくれる人がいますように！

『更生保護』日本更生保護協会 平成23年10月号 pp. 2-6より

※【涵養】かんよう

自然にしみこむように、養成すること。無理のないようだんだんに養い作ること。

「徳を一する」「水源一林」

「論文作成」のための特別講座 練習問題16 解説

資料読み取り型の作文問題である。資料からメッセージを読み取って、そのメッセージ(問題提起)に対して、自分の意見を説明することが求められている。ただし、作文には、「犯罪」、「被害者」、「教育」の3つの言葉を必ず使用することが求められている。

書き方の公式は、標準的な「資料読みとり型小論文」の構成(段落構成)を使えばよい。

第1段 資料文からの「引用」

第2段 「問題提起」＋「判断」

第3段 「根拠」

「答案」を書くテクニック

第1段の「引用」の場面で、論じる対象を明確に示えること。たとえ、長文でも、正確に文を写すことが基本である(勝手に省略したり、言い換えしないこと)。

そして、とりあげた段落のメッセージについて「自分はどう受け止めるのか」を書くことが大切である。

第2段で、「問題提起」として、自分は「犯罪者」あるいは「非行少年」に対してどんなイメージを持っていたのかを説明すること。そのイメージと「受けとめてもらうだけで人は変わる」の作者の思いとどのように違うのかを説明する。

次に、今後の自分がしなければならないとか、したいことを「犯罪」や「被害者」との関係、そして「教育」を使用して自分の思いを書くこと。特に、「教育」の果たす役割についての自分の考えを述べるのが大切である。

あるいは、非行や犯罪の背景には、犯罪者自身が虐待などの被害者であることが多いなどの客観的な事情を指摘することも重要なポイントになる。

第3段では、犯罪の「被害者」を減らすために、自分が今後に取り組むべき方法を具体的に説明すること。その際、今の自分のできることと、人との関わり方や、教育のあり方について、自分が将来身につけたい力量・知識・技術について説明し、自分の課題を明らかにできれば高い評価が与えられるであろう。

※ 採点基準

個人の「人生感」を採点することはできない。

しかし、「課題設定力」と「表現力」及び「論理力」は、採点対象とすることができる。この問題の採点基準は、10点満点として考えると次のような配点になる。

① 「受けとめてもらうだけで人は変わる」が伝えるメッセージ(変わらない人はいない、自分の心を知ることが、他人の心の痛みを知ることになるなど)を説明している。(2点)

② 犯罪者と周囲の人達とのつながりや、教育の影響について、「受けとめてもらうだけで人は変わる」を読む前と、読んだ後での自分の考え方の変化などについて具体的に書いている。(2点)

③ 自分の克服すべき課題を、「被害者」「教育」を使って説明している。(2点)

以上の①～③を書いていることと、指定文字数で書いていることが最低条件。

加点対象は、

④ 自分の目指す「人を受けとめる」方法について具体性がある。(2点)

⑤ キーワード(人の心、人は変わる、受けとめるなど)を効果的に使用して、説明している。(2点)

なお、一般的に、論理矛盾は、減点対象である。